

## トコトリエノールでアレルギー対策 γCD包接で利用能を向上

シクロケム(東京都中央区)は、新たに抗アレルギー作用に関する研究成果が報告された「トコトリエノール(T3)」について、安定性と利用能を向上させるγCD包接化での提案を強化する方針だ。

T3のアレルギー性皮膚炎抑制効果についての検討試験では、アレルギーの指標とされるヒスタミンが有意に低減することが確認された。

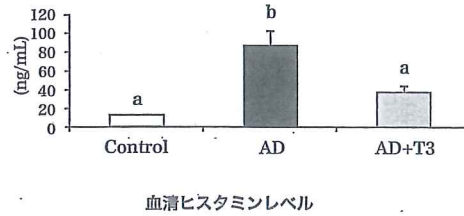
1週間、T3をマウスに経口摂取(1mg/日)させた後、塩化ヒクリルでアレルギー性皮膚炎を発症させたADJUN、Hcoを摂取していない群(AD)に比べて、T3摂取群(AD+T3)の血清ヒスタミンレベルは有意に低減した(グラフ参照)。

また、抑制効果の指標として、擦過(掻いた)回数やIgeE(アレ

## シクロケム

アレルギー反応に関与する抗体などについて評価したところ、血清ヒスタミンと同様の傾向がみられた。

ビタミンEは、不飽和ビタミンEと飽和ビタミンEとに分けられ、T3は不飽和ビタミンEに属している。



細胞を用いたアレルギー性皮膚炎の抑制効果を検証したところ、T3に際立って高い機能性があることが確認された。

I型アレルギーに対する抗アレルギー作用を持つ物質のスクリーニングとして、探索研究などに広く使われているラット好塩基球性白血病細胞(RBL-2H3)に、各種T3を処理して検証した。

その結果、細胞への取り込み量はT3が大きくなり、T3を作用させた細胞からのヒスタミンの放出量に関してもT3が有効的に抑制できていることが確認された。

一方で、これまでT3は安定性や吸収性の低さなどが課題とされてきた。

同社では、CoQ10やβリポ酸で実績を持つ「マシクロナキストリン」で包接化することによってこれらの課題を解決。有用な製品の開発に成功している。